

会員の発表論文目録

(二〇二〇年一〇月―二〇二二年三月・前号までの欠落分)

日本史

曾 昭駿

「モンゴル襲来期の渡来僧西潤子曇と八幡神」、『史泉』第一三三号(関西大学史学・地理学会)、二〇二一年一月

三好 順子

「桓武朝の天神の祀り―郊祀円丘の所在地はどこか―」、『史泉』第一三三号(関西大学史学・地理学会)、二〇二二年一月

東洋史

新谷 英治

「『キターブ・バフリエ』に見えるダルマツイア海岸」、『関西大学文学論集』第七〇巻第四号(関西大学文学會)、二〇二二年三月

松浦 章

「一九世紀中葉の上海・デント商会の日本貿易」、『海事史研究』(77)(日本海事史学会)、二〇二〇年十一月

「日本統治時代の台湾産カジキマグロの大連への輸出」、『南島史学』(88)(南島史学会)、二〇二〇年十一月

「南満洲鐵道株式會社の上海航路」、『関西大学文学論集』第七〇巻第三号(関西大学文学會)、二〇二〇年十二月

「江戸時代長崎に來航した上海船」、『東アジア文化交渉研究』(14)(関西大

学大学院東アジア文化研究科)、二〇二二年三月

(新刊紹介) 主編 謝必震 副主編 吳巍巍 謝忱 林燕喜 万国津梁・福建與琉球(図説 福建與海上絲綢之路)、『南島史学』(88)(南島史学会)、二〇二〇年十一月

(新刊紹介) 中島栄章著『大航海時代の海域アジアと琉球・レキオスを求めて』、『南島史学』(88)(南島史学会)、二〇二〇年十一月

森部 豊

「隋・唐帝国と「宗教」―東ユーラシアから問いかける」、『日本宗教史2・世界のなかの日本宗教』(吉川弘文館)、二〇二二年三月

李 宇一

「唐代「神策外鎮」再考」、『史泉』第二三三号(関西大学史学・地理学会)、二〇二二年一月

西洋史

嶋中博章

(書評)「イヴァン・ジャブロンカ、真野倫平訳『歴史家と少女殺人事件―ロシアの物語』名古屋大学出版会、二〇二〇年」、日本ヴァレリー研究会 Blog-Le vent se lève` <https://www.paul-valery-japon.com/>、二〇二二年二月

森本慶太

(項目執筆)「スイス・アルプスをめぐる歴史―『通路』から『目的地』へ―」、石田勇治編集代表『ドイツ文化事典』(丸善出版)、二〇二〇年一〇月
(共著)『はじめて学ぶドイツの歴史と文化』(ミネルヴァ書房)、二〇二〇年十一月

「近代スイス観光史研究の課題と展望―大衆化と観光業をめぐる試論―」、

『関西大学文学論集』第七〇巻第三号(関西大学文学会)、二〇二〇年十二月

地理学・地域環境学

黒木貴一

「福岡県内の平成30年7月豪雨災害の特徴」、『地理科学』75-3、二〇二〇年十二月

(共著)「雲仙・桜島火山麓のUAVによる地形測量とその精度」、『日本文理大学紀要』41-2、二〇二〇年一〇月

「奉納物等で見えるローカル地域の神社空間の景観変化―筑紫平野の事例―」、『関西大学博物館紀要』27、二〇二二年三月

(共著)「筑後川下流域の神社奉納物によるローカル地域の見方」、『福岡教育大学紀要』70-2、二〇二二年三月

蔡 伊寧

(書評)「宮内泰介著『歩く、見る、聞く 人びとの自然再生』、『史泉』第二三三号(関西大学史学・地理学会)、二〇二二年一月

会 告

関西大学史学・地理学会では、毎年一二月第一土曜日に大会および総会を開いております。本年度は一二月四日(土)を予定しており、現在、大会における研究発表者を募集しております。発表を希望される会員は、関西大学歴史学・地理学系合同研究室宛に、郵便または電子メール (shichi@cm.kansai-u.ac.jp) で、発表者名、論題、連絡先(住所、電話番号、電子メールアドレス)と発表要旨データをお送りください。申し込みの締め切りは十月十四日(木)必着です。応募者が多数の場合はご希望に添えないこともありますので、あらかじめお含みおきください。

また、ポスター報告者も同時に募集しております。手続きは口頭発表者と同じです。

なお、コロナウィルス問題の状況次第では、オンライン開催または延期・中止などの可能性も視野に入れて検討しております。あらかじめご了承ください。